普及活動情勢報告（平成 28 年８月分）

安芸農業振興センター

情勢報告

～28 園芸年度試験展示ほ成績発表会で各種実証結果を周知～

自分のほ場での炭酸ガス施用

結果を熱く語るナス生産者

今年も７月19日にＪＡ土佐あき本所で28園芸年度試験展示ほ成績発表会（参加者57人、うち生産者25人）が開催されました。

農業改良普及課は、環境制御技術や病害防除の実証結果６事例を発表するとともに、環境制御技術導入農家２人の事例発表資料の作成支援や農業技術センター職員の黒枯病対策の講演をコーディネートしました。「今年は黒枯病が多発し、防除に苦労した」「くん煙剤を効果的に使うにはどのような点に注意したらよいか」といった声や質問が出ました。

農業改良普及課は、実証結果や黒枯病対策の情報を各地区品目部会の勉強会等でも広く周知し、実証技術の実践を促進します。

まだまだ環境制御技術、拡げていきましょう！　～安芸地区環境制御技術普及推進会議～

安芸地区環境制御技術普及推進会議の様子

農業改良普及課は７月25日、ＪＡ土佐あき本所で第１回安芸地区環境制御技術普及推進会議を開催しました。生産者代表８人を含む、ＪＡや県の関係機関職員など30人以上が出席しました。

農業改良普及課はナス、キュウリの環境制御技術の現地実証成果、県関係機関からはH27年度実績及びH28年度の実施計画の報告があり、増収効果や経済性について意見交換しました。

会議では「管内で導入農家を更に拡げるにはどうすれば良いか」の意見を募り、生産者代表からは「普及するには導入農家に確実に増収させること」「事業がなくても導入するぐらいにならないと」といった意見や提案をいただきました。

農業改良普及課では、２月に第２回目の推進会議の開催を計画しており、生産者代表、関係機関と協力しながら環境制御技術導入の推進と技術の早期確立に向けて取り組んでいきます。

どの品種がいい？　～唐浜ピーマン部会が勉強会～

赤ピーマンの果色を見比べる生産者

７月 29 日、安田町で唐浜ピーマン部会が勉強会を開催し、生産者６人が参加しました。

農業改良普及課から、現在実施中の品種比較試験の果実調査結果を報告し、果形・果色・食味について検討しました。生産者からは「『京ゆたか』は果色が良く、割れも気にならない」「『はばたき３号Ｂ』はサラダに向いていると思う」などの意見があり、活発な意見交換が行われました。また、高温期の着色不良対策として光照射追熟技術を調査することが決まりました。

農業改良普及課は、今後も品種比較試験や光照射追熟技術などを通じて、部会活動を支援します。

普及活動情勢報告（平成 28 年８月分）

安芸農業振興センター

情勢報告

こんなこともできるが？！　もう操作はまかしちょって！！
～日射比例かん水装置の操作研修会を開催～

日射比例かん水装置を使った研修会の様子

農業改良普及課は８月10日、第２回安芸地区環境制御技術普及推進プロジェクトチーム会として、「日射比例かん水装置」の操作研修（基礎編）を開催し、環境制御推進員を中心に普及指導員とＪＡ営農指導員など17人が参加しました。管内では、H28年度環境制御技術普及促進事業を使って日射比例かん水装置を70台程導入する予定であり、導入後の問合せにも対応できるように、機器メーカーから講師を招いて「基本操作」の研修をしました。実際に機械を操作しながらの研修に参加者からは「すごい！こんなこともできるがや」などの驚きの声も上がり、熱心に研修していました。

農業改良普及課では、９月上旬に２回目の操作研修(応用編)を計画しており、今後も関係機関と協力して環境制御技術の導入を推進します。

クロルピクリン錠剤くん蒸処理によるフザリウム立枯病と青枯病の同時防除効果を検討

クロルピクリン錠剤をほ場に
均一に散布する普及指導員

７月 30 日､28 園芸年度作でナスフザリウム立枯病及び青枯病が激発したナスほ場でクロルピクリン錠剤の全層施用によるくん蒸処理を行いました。当日は、園主、農薬メーカー、ＪＡ営農指導員２人、農業改良普及課職員２人で、午前６時から 2.5 時間かけて 10ａのほ場に錠剤散布、トラクターによる土壌混和、マルチング、ハウス蒸し込みの一連の作業を行いました。

農業改良普及課は、このほ場でナスの生育状況や病害の発病実態を適宜調査して、防除効果を検証するとともに、実証結果を部会等で報告していきます。

若手でユズを盛り上げよう！　～安芸地区と物部地区の若手生産者が交流～

現地での意見交換の様子

７月 26 日に安芸市内で、ＪＡ土佐あきとＪＡ土佐香美物部地区の若手ユズ生産者が交流会を開催し、安芸地区から 10 人、物部地区から８人が参加しました。

始めに安芸市内の畑山支部、東川支部の若手生産者の園地を視察しました。現地では、園主から自身の栽培管理を説明後、農業改良普及課から説明の補足や、管内で主流となっている樹形、栽培管理の特徴等を紹介、自由に意見交換しました。続いて、ＪＡ土佐あき東支所の会議室で各産地での取り組み等について情報交換し、生産者から「すごく刺激になった」「また交流会を開催したい」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は今後も、柚子部や関係機関と連携し、産地を担う若手ユズ生産者の交流会活動を支援します。

普及活動情勢報告（平成 28 年８月分）

安芸農業振興センター

情勢報告

ポンカンの一元出荷に向けて一致団結！　～東洋と吉良川の生産者が交流～

ポンカンほ場見学の様子

７月 28 日､今年度から始まるＪＡ土佐あき全体の一元出荷に向けて、ポンカン部会吉良川支部の生産者９人が東洋町を訪問し、甲浦支部の生産者 11 人と交流しました。

交流会では始めに甲浦地区の高収量ポンカンほ場を見学しました。農業改良普及課は栽培管理の特徴を説明し、参加者から園主に高収量の秘訣等の質問が出されました。続いて河内集会所で一元出荷や今年の作柄等についての情報を交換し、両支部の交流が図られました。

農業改良普及課は今後、光センサー選果基準について助言し、一元出荷及び光センサー選果へのスムーズな移行を支援します。

基本を大切に！　～　ユズ講座の開催　～

熱心に農薬の話を聞いている生産者

８月21日にＪＡ土佐あき北川支所でＪＡ土佐あき柚子部会が、栽培経験の浅い生産者を対象にユズ講座を開催し、27人の参加がありました。

農業改良普及課は、「農薬の使用と管理」「ユズのウィルス病の話」を栽培管理のポイントに絡めて説明しました。意見交換では、露地ユズの夏場のかん水のやり方、コハン症と欠乏症の関連等について質問がありました。

今後も農業改良普及課は、新規就農者を対象に技術向上・経営安定のためにユズ講座に協力していきます。

研修生の確保に向けて産地・地域を紹介～農業担い手育成センター座学～

長期研修生に産地・地域を紹介

８月３日に、管内４市町村の担当者とともに農業担い手育成センターの座学「県内産地・地域の紹介」に出席しました。

長期研修生 16 人に対し、農業改良普及課は管内における農業の概要と就農支援の取り組みを紹介し、奈半利町、田野町、室戸市、芸西村は産地提案書や地域・農業のＰＲ資料を用いて研修生を募集しました。

意見交換では、「就農には自己資金がいくら必要か」「ハウスや設備の導入にどのくらい補助があるか」といった質問があり、各市町村での就農事例や支援内容を紹介しました。

今後も農業改良普及課は、管内の市町村とともに新たな担い手の確保を目指して産地提案を行います。

普及活動情勢報告（平成 28 年８月分）

安芸農業振興センター

情勢報告

就農サポートハウスの設置に向けて　～中芸地区就農支援ネットワーク会～

中芸地区就農支援ネットワーク会での
ハウス設置の検討

中芸地区では今年度、「就農支援ネットワーク会」が組織され、中芸地区における就農促進のために関係機関で情報交換や検討を行っています。８月 18 日に第２回目の会が開催され、奈半利町、田野町、安田町、北川村の関係機関が出席し、研修後の経営実践のための就農サポートハウスの設置に向けて協議しました。

農業改良普及課は、就農サポートハウスを継続して機能させるためには研修生の確保が必要で、生産部会と連携して積極的に研修生を呼び込むことを提案しました。

次回は９月下旬の予定で、研修生の確保対策も含めて就農サポートハウスの設置を検討します。

（農）おくがの村糸賀氏、安芸で初めての講演会！～第２回集落営農塾（組織化）～

糸賀氏の講演を熱心に聴く参加者

７月 25 日にＪＡ土佐あき奈半利支所２階ホールで、集落営農塾（組織化）の講演会を開催し、管内の集落営農組織、集落営農検討集落及び関係機関から合計 33 人が参加しました。

まず、農業改良普及課から高知県と安芸管内の集落営農の推進状況を説明しました。その後、全国で初めて集落営農型の農事組合法人となった島根県の（農）おくがの村の糸賀盛人代表理事から、組織設立の経過や現在の取り組み状況について講演いただきました。

参加者からは、「地域の農地を守るという根本の心の持ち方について共感できた」「視察研修にはなかなか出て行けないので、こういった県外組織の方の話を聞ける機会があるとありがたい」等の意見が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、安芸地域で集落営農の組織化に向けた話し合いが進んでいくよう支援します。

東風グループ新商品「カラダとココロに優しい合わせ酢」を売り出そう！

販売先リストの検討中

８月10日、東川公民館で東風グループ３人を対象に６次産業化支援チーム会を開催し、新商品の名前や販売方法を検討しました。

商品名は「カラダとココロにやさしい合わせ酢（プレミアムてまいら酢）」と命名、農業改良普及課は製造する100ミリリットル瓶3,000本の加工原料確保方法と、販売先リストの作成を支援しました。

また、今後は、販売先に商品のＰＲ等を行い、テスト販売することになりました。

農業改良普及課は、グループが積極的に新商品を販売できるように支援します。